

<全体分析>

試験時間 80分

解答形式

選択式28問(語句選択8問、年代整序20問) 記述式6問 論述式8問 計42問

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(**易化**・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数3題、設問数42問は昨年度から変化なし。論述式は8問で変化なし。正誤問題は昨年度に続き出題されなかった。語句選択が17問から8問に減少した。記述式が2問から6問に、年代整序が15問から20問に増加した。

出題の特徴

従来通り、史料・グラフ・地図が活用された。

その他トピックス

Iでは昨年度同様、本年度経済学部の世界史入試の問題とほぼ同じリード文、及び一部同じ史料を用いた設問があった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 年代整序 論述	対馬をめぐる近世・近代 の日朝関係 《地図・史料》	問2・問4の論述問題は、コンパクトにまとめられるかがポイント。	易
II	語句選択 年代整序 記述 論述	近代日本の国家機関と その議事録《史料》	問6 b 集議院の時期判断が難しい。問7(1)大津事件に関する論述は、「判決(無期徒刑)」にまで触れることが求められており、やや難。問9(2)はやや難だが、設問文にある「下の1~5はいずれも、この25年に起きた出来事である」を念頭に置けば解答できる。	標準
III	語句選択 年代整序 記述 論述	琉球・沖縄史 《史料・グラフ・地図》	問13(1)は難。問14は、グラフ上でマイナス成長となっている年を1974年と判断して解答したい。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本年度も一部難問は含まれるものの、そうした設問は合否に大きな影響を与えるとは考えられない。大半は標準的な知識もしくはその応用レベルなので、教科書の内容を史料・地図など含めて確実にマスターしていきたい。また、未見史料やグラフ・統計への対策として、普段から思考力を育成して欲しい。特に歴史の因果関係を踏まえた学習は、年表風の時期特定・グラフの時期特定問題や、年代整序問題、さらに論述問題にも役立つだろう。論述問題には平易なものが多く、そうした問題は確実に得点できるように訓練しておきたい。